

令和8年度 城東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

Ⅰ「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

Ⅰ 全国学力・学習状況調査

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT=Computer Based Testing）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率 (%)		平均無解答率 (%)		平均IRTスコア 英語4技能 () 内は3技能 (参考)
			国語	数学	国語	数学	
3 年	学校	162	64	57	2.6	6.6	530 (533)
	大阪市	-	60	55	5.4	11.4	499 (499)
4月23日	全国	-	63.9	57.0	4.9	10.4	499 (499)

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

○全国学力・学習状況調査結果

<国語>

全国と比較して、「話すこと・聞くこと」の領域においては2.4%、「書くこと」の領域においては1.1%低かったが、「読むこと」の領域においては3.5%高かった。無回答率は全国と比較して2.3%低かったものの、記述式の問題では無回答率が高い傾向が見られたため、今後は文章を書く力を伸ばしていく必要がある。

<数学>

全国と比較して領域別正答率は、「数と式」の領域では2.4%高かった。また、「関数」の領域では0.1%低く、「データの活用」では同じ正答率であったが、「図形」の領域では1.5%低かった。平均無解答率は全国と比較して、3.8%低かった。今後は、図形領域の問題を解く力をつけていく必要がある。

<英語>

全国と比較して、平均IRTスコアを31ポイント上回り、またIRTバンド分布が下位層部が少なかった。ただ、「話すこと」を含めた4技能のスコアは、「話すこと」を除いた3技能より3ポイント下回った。今後は語彙力を高め、話すことに自信を高めていく必要がある。

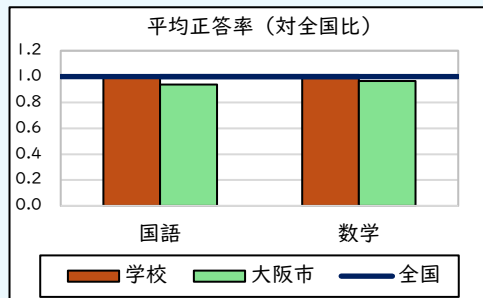
今後に向けて

学習動画コンテンツ配信事業をさらに効果的に活用するとともに、思考力・表現力を伸ばすため授業内容を充実深化する。

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

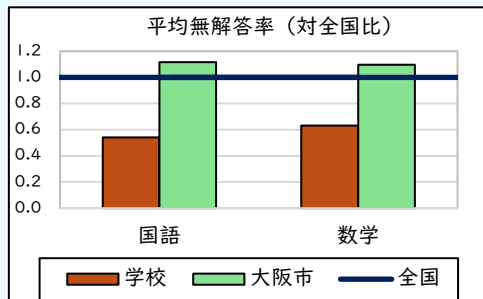
平均正答率（％）

	国語	数学
学校	64	57
大阪市	60	55
全国	63.9	57.0



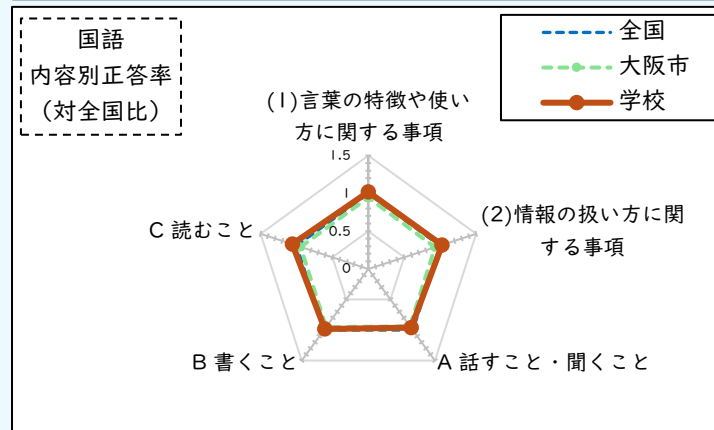
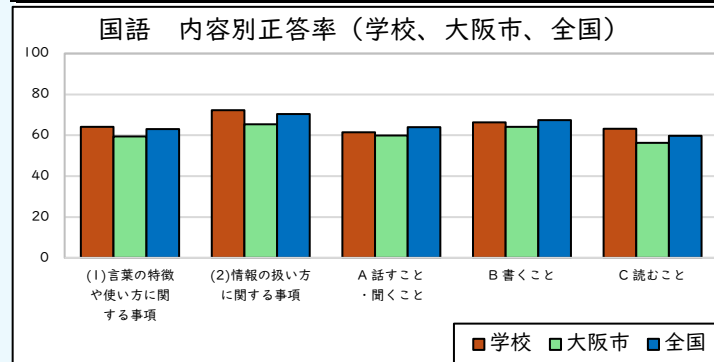
平均無解答率（％）

	国語	数学
学校	2.6	6.6
大阪市	5.4	11.4
全国	4.9	10.4



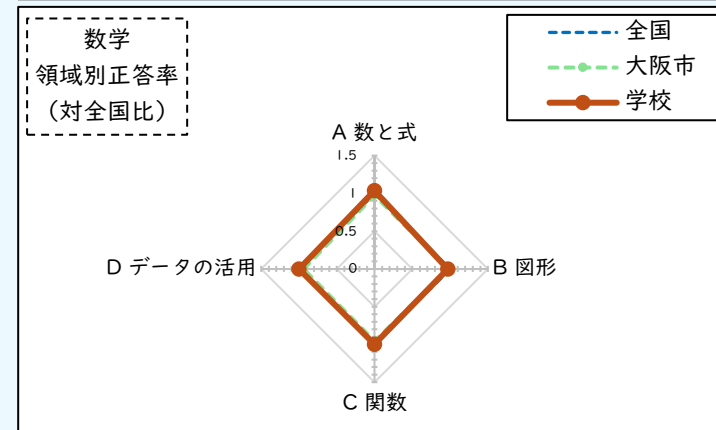
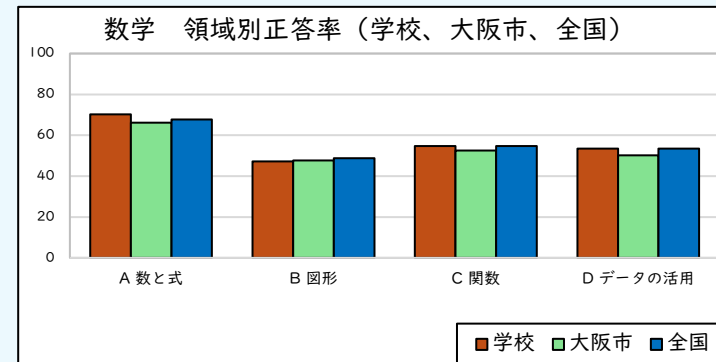
【国語】内容別正答率

学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	5	64.2	59.5	63.0
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	72.2	65.3	70.4
(3)我が国の言語文化 に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	61.5	59.9	63.9
B 書くこと	3	66.3	64.2	67.4
C 読むこと	3	63.2	56.3	59.7



【数学】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	70.2	66.1	67.8
B 図形	4	47.2	47.6	48.7
C 関数	3	54.7	52.5	54.8
D データの活用	4	53.5	50.2	53.5



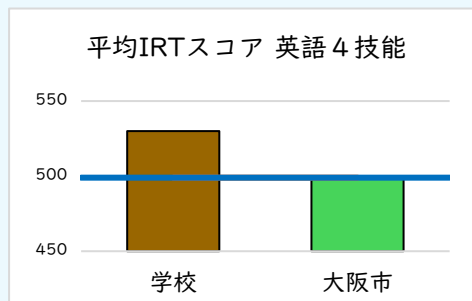
令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（英語）

英語 平均IRTスコア

学校	530 (533)
大阪市	499 (499)
全国	499 (499)

※ 4技能の平均IRTスコアです

※ () 内は3技能の平均IRTスコアです



【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学カスコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和8年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

【IRTバンドとは】

IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

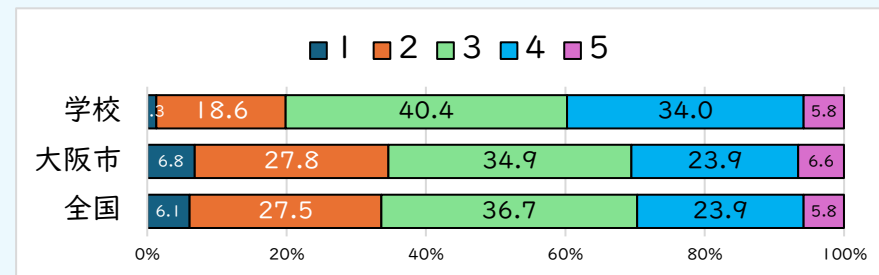
※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

IRTバンド分布比較（4技能）

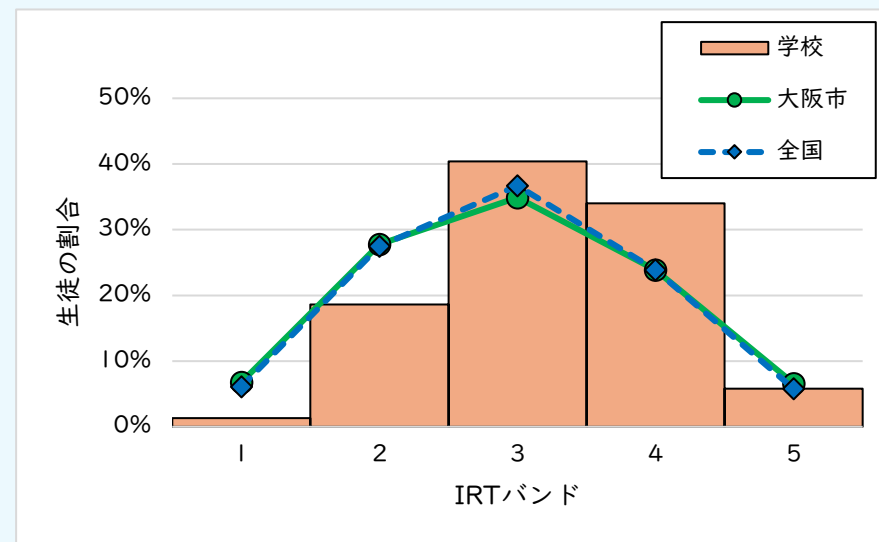
	1	2	3	4	5
学校	1.3	18.6	40.4	34.0	5.8
大阪市	6.8	27.8	34.9	23.9	6.6
全国	6.1	27.5	36.7	23.9	5.8

※ 4技能のIRTバンド分布です

IRTバンド分布比較（4技能）



IRTバンド分布グラフ（4技能）



生徒質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

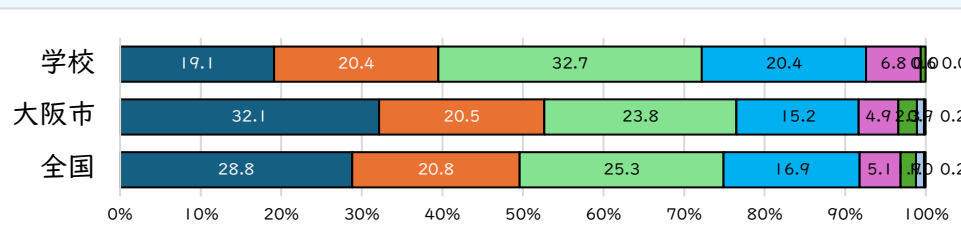
■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

質問番号

質問事項

(4)

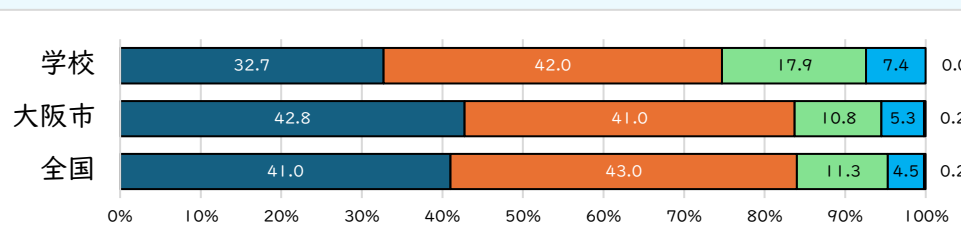
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）



- 1 4時間以上
- 2 3時間以上、4時間より少ない
- 3 2時間以上、3時間より少ない
- 4 1時間以上、2時間より少ない
- 5 30分以上、1時間より少ない
- 6 30分より少ない
- 7 スマートフォン等を持っていない

(8)

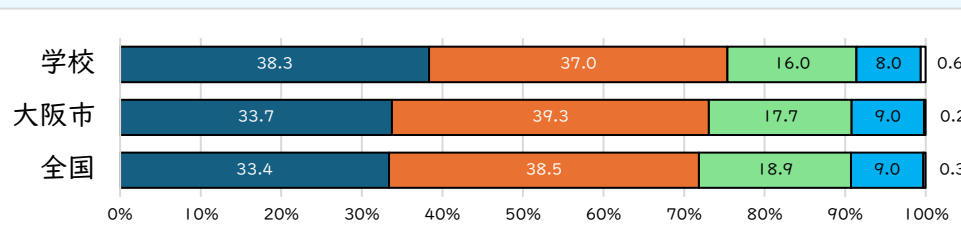
自分には、よいところがあると思いますか



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(13)

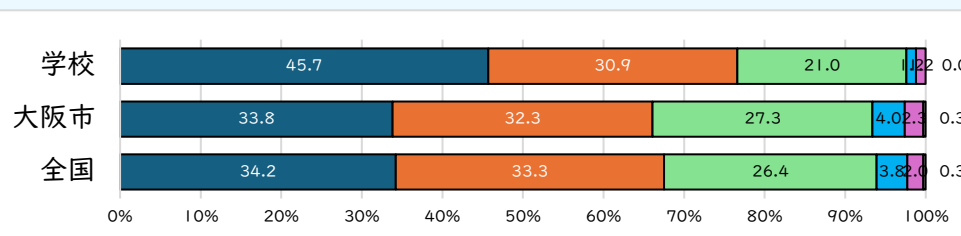
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(20)

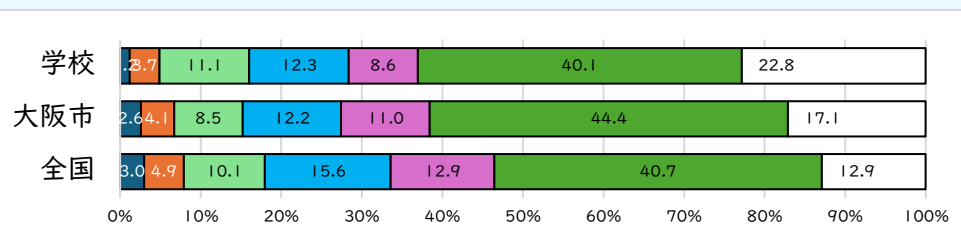
あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば、当てはまらない
- 5 当てはまらない

(26)

学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書を行いますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



- 1 2時間以上
- 2 1時間以上、2時間より少ない
- 3 30分以上、1時間より少ない
- 4 10分以上、30分より少ない
- 5 10分より少ない
- 6 全くしない

学校質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

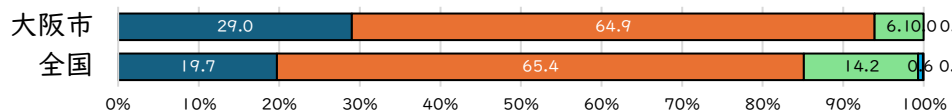
質問番号

質問事項

(7)

調査対象学年の生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか

【学校の回答】 1 そう思う

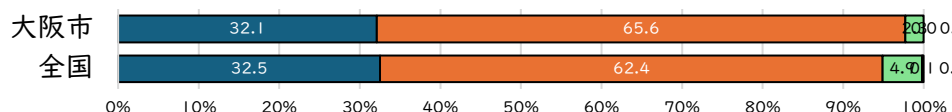


- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

(29)

調査対象学年の生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、そう思う

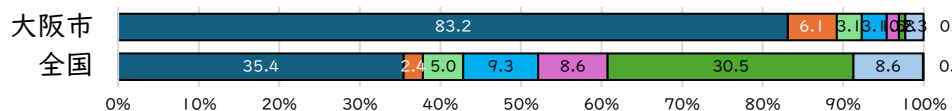


- 1 そう思う
- 2 どちらかといえば、そう思う
- 3 どちらかといえば、そう思わない
- 4 そう思わない

(78-5)

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。
(5) 生徒の心身の状況の把握

【学校の回答】 1 ほぼ毎日

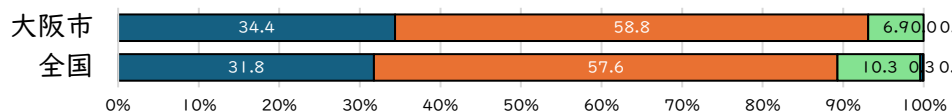


- 1 ほぼ毎日
- 2 週3回以上
- 3 週1回以上
- 4 月1回以上
- 5 月1回未満
- 6 活用していない
- 7 該当する生徒がいない

(66)

生徒が学びを深めるための指導改善に向けた取組として、教員がコンピュータなどのICT機器の効果的な使い方を学ぶために必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、当てはまる

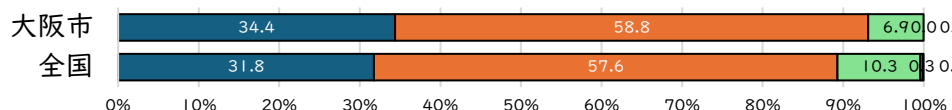


- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(66)

生徒が学びを深めるための指導改善に向けた取組として、教員がコンピュータなどのICT機器の効果的な使い方を学ぶために必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか

【学校の回答】 2 どちらかといえば、当てはまる



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない